福岡県社会福祉協議会　広報誌

No.176
2019.12

ふくおかのふくし

Welfare of Fukuoka

ねんりんピック和歌山大会
福岡県選手団のはつらつとした
入場行進の様子（関連記事6頁）

今号の内容

P1	令和元年福岡県社会福祉大会
P4	ふくふくNEWS
P5	ねんりんピック紀の国わかやま2019
P6	第19回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭
P7	赤い羽根共同募金
P9	ふくふくInfo

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の配分金を受けて発行しています。

ふくおかのふくし

ふくおかのふくし　176号　発行所／福岡県春日市原町3丁目1番地7　福岡県総合福祉センター（クローバープラザ）内　社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会
TEL(092)584-3377 FAX(092)584-3369　発行日／2019年（令和元年）12月16日　編集発行人／小川弘毅　印刷所／株式会社　日報

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

令和元年度

http://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険　検索

全国200万人加入!!　日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険

対象となるボランティア活動

◆グループの会則に則り企画、立案された活動であること
（グループが社会福祉協議会に登録されていることが必要です。）
◆社会福祉協議会に届け出た活動であること
◆社会福祉協議会に委嘱された活動であること
※活動のための学習会または会議などを含みます。
※自宅などとボランティア活動を行う場所との通常の経路による往復途上を含みます。（自宅以外から出発する場合は、その場所と活動場所への往復途上となります。）

保険金をお支払いする主な場合

- 清掃ボランティア活動中、転んでケガをして通院した。（ケガの補償）
- 活動に向かう途中、交通事故にあって亡くなられた。（ケガの補償）
- 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になって入院した。（ケガの補償）
- 家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花びんを落としてこわした。（賠償責任の補償）
- 自転車でボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。（賠償責任の補償）

保険金額・年間保険料（1名あたり）

			Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円
	後遺障害保険金		1,040万円（限度額）	1,400万円（限度額）
	入院保険金日額		6,500円	10,000円
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
		外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円
	特定感染症の補償		上記後遺障害、入院、通院の各補償金額（保険金額）に同じ	
	葬祭費用保険金（特定感染症）		300万円（限度額）	
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）		5億円（限度額）	
年間保険料	基本タイプ		350円	510円
	天災タイプ(※)（基本タイプ+地震・噴火・津波）		500円	710円

団体割引 20%適用済／過去の損害率による割増引適用

（※）天災タイプでは、天災（地震、噴火または津波）に起因する被保険者自身のケガを補償します（天災危険担保特約条項）が、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償！
● 行事参加者（主催者〔個人〕を含みます。）全員のケガを補償　● 行事主催者の損害賠償責任も補償

送迎サービス補償（傷害保険）

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！
● 送迎・移送サービス利用者を特定したAプラン
● 送迎・移送サービスのための自動車を特定したBプラン

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！
● 在宅福祉サービス（公的介護保険対象外サービスを含みます。）
● 地域福祉サービス
● 障害福祉サービス
● 児童福祉サービス
● 障害者地域生活支援事業
● 介護保険サービス　など

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者　社会福祉法人 全国社会福祉協議会
〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、12/31～1/3を除きます。）

取扱代理店　株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667　FAX：03（3581）4763
営業時間：平日の 9:30～17:30（12/29～1/3 を除きます。）

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〈SJNK18-13566　2019.1.16 作成〉

特集

令和元年福岡県社会福祉大会

地域共生社会の実現に向けて

福岡県社会福祉協議会、福岡県共同募金会は、去る10月30日(水)にクローバープラザ(春日市)で「令和元年福岡県社会福祉大会」を開催しました。本大会は、社会保障・社会福祉制度の現状と課題を踏まえ、誰もが安心して暮らせる元気な地域づくりに取り組んでいく契機として開催され、県内の社会福祉協議会や社会福祉施設関係者、民生委員・児童委員など、社会福祉関係者1,000名余に参加いただきました。

「包括的な支援体制づくりが全国の各市町村で進んでいます。」

総会・式典に先立ち、九州厚生局長塚本 力 氏より「地域共生社会の実現に向けて」と題し記念講演をいただきました。以下、その概略を報告します。

記念講演

近年、少子高齢化や生産年齢人口の減少など、人口構造の急速な変化等により社会情勢や社会経済が変化する中、制度・分野ごとに「縦割り」であることや「支える側」「支えられる側」という従来の関係を越えて、人と人、人と社会がつながり支え合う「地域共生社会」を実現することが求められます。

平成27年度から「地域共生社会」の実現に向け、法制度の改正等が進められてきており、現在、全国の市町村でその取組が推進されています。

更に国では、本年5月より、今後の社会保障制度のあり方をどのように考えていくかという中長期的な観点を念頭に置きつつ、当面の課題として、平成29年介護保険法等改正法の附則に規定された市町村における包括的な支援体制の全国的な整備を推進するため、有識者による検討会を開催しています。その検討会において、①丸ごと相談（断らない相談支援）の実現、②地域共生に資する取組の促進、③高齢者も障害者も利用できるサービスの推進の3項目について検討が進められており、この3つの機能を一体的に備えた体制づくりが今後必要だと示されました。

厚生労働省 九州厚生局
局長 塚本 力 氏

高齢者人口がピークを迎える2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現に向けて。

10月に開催された第6回検討会では市町村がそれぞれの実情に応じて包括的な支援体制を整備するため、「断らない相談支援」「参加支援（社会とのつながりや参加の支援）」「地域やコミュニティにおけるケア・支え合う関係性の育成支援」を一体的に実施する新たな事業を創設することが示され、令和3年度の事業実施を目指し、まずはモデル事業を実施することで、その効果や成果を、他の市町村にも広げていくことを目標としています。

また、本事業全体の理念について、本人を中心として、"伴走"する意識を共通の基盤とし、アウトリーチを含む早期の支援、本人・世帯を包括的に受け止め支える支援、本人を中心とし、本人の力を引き出す支援、信頼関係を基盤とした継続的な支援、地域とのつながりや関係性づくりを行う支援であることとされました。また、市町村が取組を進めるに当たって留意すべき点についても示され、一度整備した体制だったとしても、関係者間での振り返りや議論を行うことで、柔軟に見直し、試行錯誤しながら改善していくこととされました。

更に、検討会では財政支援に関する考え方も示されており、経済財政運営と改革の基本方針2019（骨太の方針）において、新たな事業に伴う予算要求を含め、横断的に予算執行できるよう、取組を強化することが示されました。

九州厚生局においても、地域共生社会の実現に向けて体制を整え、各県等と連携しつつ、優良事例サイトの創設、表彰の実施、アドバイザーの登録・派遣、セミナー等の開催により、市町村等の取組を支援しています。

最後に、塚本氏は今後も地域共生社会の実現に向け、各市町村の取組強化を推進していくとともに、関係機関・関係各省との連携についても九州厚生局ならではの力を発揮し、地域福祉の推進に努めていきたいとお話しくださいました。

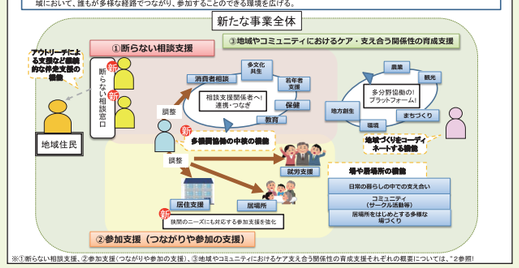
「地域共生社会」の実現に向けた地域づくりに関するこれまでの経緯

平成27年9月	**「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」（「新たな福祉サービスのシステム等のあり方検討」報告）**
	多機関の協働による包括的支援体制構築事業（平成28年度予算）
平成28年6月	**「ニッポン一億総活躍プラン」（閣議決定）に地域共生社会の実現が盛り込まれる**
7月	「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の設置
10月	地域力強化検討会（地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会）の設置
12月	地域力強化検討会　中間とりまとめ
	「我が事・丸ごと」の地域づくりの強化に向けたモデル事業（平成29年度予算）
平成29年2月	**社会福祉法改正案（地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案）を国会に提出**
	「「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）」を「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部で決定
5月	社会福祉法改正案の可決・成立　→　6月　改正社会福祉法の公布！ ※　改正法の附則において、「公布後3年を目処として、市町村における包括的な支援体制を全国的に整備するための方策について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。」と規定。
9月	地域力強化検討会　最終とりまとめ
12月	「社会福祉法に基づく市町村における包括的な支援体制の整備に関する指針」の策定・公表及び関連通知の発出
平成30年4月	**改正社会福祉法の施行**

「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」資料参照

新たな事業について（イメージ）

○新たな事業を実施する市町村は、ニーズと資源の状況を勘案し、管轄域内全体で断らない包括的な支援体制を整備する方策を検討する。
○断らない相談支援の機能に属がった本人・世帯について、複雑・複合的な課題が存在している場合には、新たに整備する多機関協働の中核の機能が複数支援者間を調整するとともに、地域とのつながりを構築する参加支援へのつなぎを行う。
○また、支援ニーズが明らかでない本人・世帯については、断らない相談支援の機能に位置づけるアウトリーチによる支援など継続的につながり続ける伴走の機能により、関係性を保つ。
○このような地域への創造に向けた伴走型支援を行う一方で、地域やコミュニティにおけるケア・支え合う関係性の育成支援を行うことにより、地域において、誰もが多様な経路でつながり、参加することのできる環境を広げる。



※①断らない相談支援、②参加支援（つながりや参加の支援）、③地域やコミュニティにおけるケア支え合う関係性の育成支援それぞれの概要については、"2参照!

「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」資料参照

式典

本大会では、県内社会福祉関係者の総意をもって、「大会宣言」・「実践申合せ事項」・「特別アピール」を採択しました。また、「特別アピール」については地域福祉を担う関係者が切に実現を願うこととして、厚生労働省、福岡県、県内市町村に対し、強く要望しました。

■大会宣言

我が国は、少子高齢・人口減少社会というかつてない厳しい社会・経済課題に直面しています。また、地域においては、コミュニティの脆弱化をはじめとする社会構造の変化に伴い、地域生活課題が複雑・多様化しています。国では、高齢者や子どもはもとより、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる

ように、全世代型社会保障制度の構築と併せ、共に支え合う「地域共生社会」の実現を目指しています。その実現に向け、各自治体では、改正社会福祉法に基づく地域福祉計画・地域福祉支援計画の策定や見直し、地域を基盤とした包括的な相談支援体制の整備等が求められています。

一方で、多機関連携を担う社会福祉協議会、社会福祉法人・福祉施設、民生委員・児童委員等、福祉分野の人材不足は深刻であり、その確保、養成、定着のための対策は喫緊の課題となっています。加えて、近年、大規模な自然災害が各地で頻発しており、防災・減災、そして被災後の復旧・復興に備えるためにも、地域での日常的な取組が重要となっています。

このようなときこそ、社会福祉関係者は、これまでの経験と実績を活かし、それぞれの立場で質の高い専門性を発揮することで、その存在意を示すとともに、地域福祉の推進役として、その役割を果たすことが強く求められています。

本大会において、私たち社会福祉関係者は、これまで以上に相互の、そして多職種、他機関・団体との連携強化に努め、国・県・市町村と協働して、すべての人が安心して暮らすことができる福岡県づくりに一致団結して取り組むことを誓い、ここに宣言します。

■実践申合せ事項

①共に支え合う地域共生社会の実現

地域の様々な主体が参画し、地域の人や資源が分野・世代を超えてつながるよう、住民主体による課題解決力強化並びに包括的な相談支援体制づくりを、地域住民との連携により実践し、共に支え合う地域共生社会の実現に努めよう。

②福祉人材の確保、養成、定着のための総合的な対策の強化

福祉分野における仕事の意義や重要性に対する社会全体の理解と、次世代を担う若年層に対するイメージアップを図るとともに、働き方改革の推進をはじめ、処遇改善やキャリアアップの支援、福祉専門職としての社会的評価の向上に取り組むなど、働きやすく魅力ある職場づくりに努めよう。

③社会福祉法人の地域における公益的な取組の強化

社会福祉法人は、極めて公益性の高い非営利法人として創設された経緯に鑑み、その責務として、様々な地域生活課題や福祉ニーズに対し、自らの公益性を自覚の上、積極的に役割を果たしていけるよう努めよう。

④大規模災害への対応強化

全国各地で相次ぐ大規模な自然災害に備え、日頃から地域住民、関係機関・団体と協働し、地域の防災力の向上に努めることはもとより、福祉関係者ならではの被災者の生活再建や心のケアに向けた支援体制の強化に努めよう。

併せて、福祉サービス利用者が安心してサービスを受けられるよう、社会福祉法人・福祉施設等における災害対策の強化を図るとともに、被災時における地域の避難拠点としての機能強化及び施設間相互の連携の充実に努めよう。

⑤福祉サービスの質の向上と利用者支援に向けた取組の強化

福祉サービスの質の向上と適切なサービス利用を支援するため、福祉サービス利用援助事業や苦情解決事業、第三者評価事業など、総合的な権利擁護体制の推進に努めよう。

⑥共同募金運動の取組強化

民間の社会福祉活動を財源面から支援する共同募金運動の強化に取り組み、さらなる推進・拡大に努めよう。

特別アピール

現在、我が国では、福祉人材の確保、養成、定着が喫緊の課題となっている。その解決には、働き方改革の推進をはじめ、処遇改善、専門性を高める研修事業の充実等、労働環境の整備が急務であり、併せて福祉の仕事の意義や魅力を広く発信し、新たな人材発掘及び定着に努める必要がある。

また、国は、急増する福祉ニーズに対応し、地域のセーフティネットとして社会福祉協議会、社会福祉法人・福祉施設、民生委員・児童委員等が持てる力を最大限に発揮することを期待しており、そのためには、社会福祉法人の非課税堅持はもとより、今後、更なる財源の確保が図られなければならない。

国及び地方自治体においては、地域共生社会の実現に向け、社会福祉関係者の意見を十分に取り入れるとともに、国と地方における権限・財源・責任の明確化を基本とした仕組みづくりを進めていただくよう、県内社会福祉関係者の総意をもって強く要望する。

令和元年8月豪雨災害における福岡県内社協の動き

◆県内社協の動き

去る8月27日（火）夜から28日（水）昼過ぎにかけて、九州北部地方では線状降水帯とみられる発達した帯状の積乱雲が流れ込み、県内各地で猛烈な雨を観測しました。

福岡県社協では、災害救援本部を立ち上げ、大雨被害に対する各市町村社協の対応等について、聞き取りを行うとともに、特に被害が甚大であった地区に状況確認のため、職員2名を派遣しました。

県内4社協（久留米市、八女市、筑後市、広川町）では、災害発生直後から被災状況の調査や被災者のニーズ把握を行い、災害ボランティアセンターを立ち上げ、近隣社協、民生委員や福祉委員、社会福祉施設、地元ボランティア団体などと連携・協働した被災地支援を展開しました。

◆佐賀県内社協へ応援職員派遣

今回の大雨により、九州ブロックにおいても、特に佐賀県内20市町に災害救助法が適用され、特に4市1町（武雄市、大町町、多久市、小城市、佐賀市）では甚大な被害となり、災害ボランティアセンターが設置されました。

これに伴い、佐賀県社協から九社連幹事県である大分県社協を通じて、被災地社協を支援するための応援職員派遣要請があり、本県は武雄市、多久市の各災害ボランティアセンターを支援することとなりました。9月6日（金）から10月12日（土）までの間、市町村社協の協力を得、計44名の県内社協職員を、各災害ボランティアセンター運営スタッフとして派遣しました。

民生委員・児童委員の一斉改選が行われました

令和元年12月1日に、3年に一度の民生委員・児童委員一斉改選が行われました。

福岡県（政令指定都市を除く）では、定数5, 199名に対し、4, 936名の委嘱数でした。新任委員数は、全体の34.4%となっています。

「民生委員・児童委員」は、地域の誰もが安心して生活できるよう、暮らしを見守るボランティアです。厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員として位置づけられ、制度創設から100年以上にわたり、日本社会を支えてきました。その歴史は、地域にあって、常に人に寄り添い、献身的な活動を続けてきた数多の先達の努力の歴史であり、今日も、全国で約23万人が活動しております。家族や地域のコミュニティーのつながりが薄れているといわれている昨今、民生委員・児童委員への期待はますます高まっています。

民生委員・児童委員は、地域住民の一員として住民からのさまざまな生活上の困りごとや心配ごとに関する相談に応じ、適切な支援やサービスへの「つなぎ役」としての役割を担っています。また、高齢者や障害者世帯等の安否を見守る「訪問活動」、子育て中の親子や高齢者の孤立を防ぐための居場所づくり、仲間づくりなどを目的とした「サロン活動」、登下校時の子どもたちの安全を守るための「あいさつ活動」等の支援も行っています

第32回全国健康福祉祭和歌山大会

ねんりんピック紀の国わかやま2019

あふれる情熱 はじける笑顔

令和元年11月9日(土)～12日(火)

福岡県選手団躍動!! ソフトバレーボール、ダンススポーツ(個人)、ゴルフ(個人)が全国優勝!!

11月9日(土)から12日(火)までの4日間、和歌山県で第32回全国健康福祉祭(ねんりんピック)が開催されました。総合開会式は紀三井寺公園陸上競技場(和歌山市)で行われ、各県・政令市の選手団が元気はつらつと、特産品を手にしたり帽子を振ったりしながら入場行進を行いました。交流大会では和歌山県内21市町で27種目の競技が行われ、日頃からスポーツや文化を通じて生きがいづくり、健康づくりを実践している全国の元気な高齢者約1万名が各会場で熱戦を繰り広げました。福岡県からは、選手・本部役員を合わせて**21種目・146名**が派遣されました。

福岡県選手団は、ソフトバレーボール並びにダンススポーツ(個人タンゴ、ワルツ)の全国優勝をはじめ、ゴルフ団体の個人優勝(65歳～69歳の部)、団体戦準優勝など各種目において優秀賞に輝き、日頃の練習の成果を十分に発揮し、元気な福岡県をアピールすることができました。

ソフトバレーボール　宮若桜龍

ダンススポーツ　堤　憲治郎・薫ペア

●福岡県選手団の主な成績

種　目	チーム・個人	表彰項目	成　績
卓球	福岡県チーム	優秀賞	第2位グループ　準優勝
ソフトテニス	チーム山笠again	優秀賞	第1位グループ
ゴルフ	村上　義春　氏	優　勝	個人戦　65歳～69歳の部
	金井　俊男　氏	優秀賞	70歳以上の部　6位
	チーム啓	準優勝	団体戦
ソフトバレーボール	宮若桜龍	優　勝	第1位リーグ優勝
ダンススポーツ	個人　堤　憲治郎・薫ペア	優　勝	タンゴ、ワルツ
なぎなた	福岡県チーム	優秀賞	演技競技ベスト8
	福岡県チーム	優秀賞	試合競技ベスト16
弓道	福岡県チーム	優秀賞	ベスト16
剣道	福岡県　糟屋剣道連盟	優秀賞	団体戦ベスト8
健康マージャン	田籠　通保　氏	優秀賞	個人戦　ブロック7位

第19回 福岡県ねんりんスポーツ・文化祭

主催：福岡県、福岡県ねんりんスポーツ・文化祭実行委員会

福岡県の元気を食・ステージ・地域文化で「全力発信！」

福岡県では、スポーツや文化活動を通じて高齢者の生きがいづくり・健康づくり・仲間づくりを支援することを目的に、「ねんりんスポーツ・文化祭」を開催しています。今年で19回目を迎え、11月30日(土)にメインイベントを中間市のなかまハーモニーホールで開催しました。

式 典

小川 弘毅 実行委員長(福岡県社会福祉協議会会長：写真左上)が開式の辞を述べ、主催者代表として大会会長である小川 洋 福岡県知事(写真右上)が100年の人生を健康で過ごせる「100年グッドライフ福岡県」を目指し力強く挨拶しました。また、福田 健次 中間市長(写真右下)から歓迎のあいさつをいただくとともに、各種表彰が行われました。

記念講演

プロ野球解説者 達川 光男さん(写真左)に「苦しみを笑いに変えた野球人生」と題して講演をいただきました。

選手時代の映像や今年ソフトバンクホークスが優勝した際の選手やチームの話、コーチ時代に起こった様々な選手とのやり取りなど、達川さんならではの名調子で、会場全体が笑いっぱなしの60分間となりました。

各種イベント

楽しみながら「ふくし」の仕事を体験できる「ちびっこ職業体験！ねんりんキッズケア！」やパラリンピックで注目を集めている競技用車いすの試乗体験、三世代が出演し、多くの観客を魅了したステージベント、地元ならではの美味しいグルメが堪能できた「ふれあい市場」など多くのイベントが同時開催されました。

地域のつながりを支えるために 歳末たすけあい運動 推進中

共同募金運動の一環である「歳末たすけあい運動」には、市区町村の区域ごとに行う「地域歳末たすけあい」と、県域で行う「NHK歳末たすけあい（県域）」の2種類があります。

「地域歳末たすけあい」は新たな年を迎える時期に、ひとり暮らしの高齢者や恵まれない方々など支援を必要とする人たちが、地域で安心して暮らすことができるように、地域住民、ボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉施設、社会福祉協議会等が行っている様々な福祉活動を資金面で支援するものです。

今年も、12月1日から31日までの1か月間、**「つながり ささえあう みんなの地域づくり」**をスローガンに本県をはじめ全国各地で取り組まれています。

また、「NHK歳末たすけあい（県域）」は、中央共同募金会とNHK等との共催で行われる運動です。

NHKがテレビ、ラジオを通じた広報を、中央共同募金会と福岡県共同募金会が寄付金の受入れや配分などを行っています。

誰もが地域社会の一員として、地域において孤立することなく、自分らしく安心して暮らすことができる福祉のまちづくりのため、皆様の温かいご支援をお願いします。

街頭募金の様子

歳末たすけあい募金のつかいみち

地域の『つながり』を支える「高齢者世帯に対する見守り・訪問活動」や「学童生徒が高齢者に年賀状を送る活動」、「クリスマス会などを通じた障害者共同作業所と地域の方々とのふれあい交流事業」、「防災事業」などの地域福祉活動や**「児童福祉施設等の中学校・高等学校卒業者の進学・就職準備の支援」**などに活用されています。

ひとり暮らし高齢者への見守り訪問活動

地域のボランティア団体等が、年末年始に、一人暮らしや寝たきりの高齢者宅を見守りを兼ねて訪問し、正月用のおもち等を配布しています。

地域で行う多世代交流事業

子どもや高齢者、障害者など、多世代の交流を図る活動により、地域の『つながり』づくりを支援します。

「令和元年度ふくおか課題解決応援プロジェクト」（テーマ型募金）

「福岡県内の塾に通えない子どもを0（ゼロ）に!」をテーマに

～令和2年1月1日から3月31日まで募金活動～

家庭環境や様々な要因により、十分な教育を受けることができなかったり、進みたい道を閉ざされる子ども達がいます。そんな子ども達のために、「特定非営利活動法人いるかねっと」は現在、県内各所で**無料学習塾**（23か所）を運営しています。今回のプロジェクトにより、**さらにその数を増設**し、学びたい子ども達に学びの場を提供していきます。

福岡県共同募金会では、共同募金運動の一環として、今年も同法人と一緒に募金活動を行います。皆様の温かいご協力をお願いします。

なお、ご協力を希望される方は、本会が作成する専用の振込用紙でお振込みいただけますので、本会あてご連絡ください。

※ ふくおか課題解決プロジェクトとは

NPO法人やボランティア団体などが身の回りの地域や社会課題解決のために行う活動を住民の皆様に丁寧に説明しながら、共感や賛同をいただける方から寄付を募り、寄せられた寄付金を共同金会が団体に活動費として配分することにより課題解決につなげる取組です。

新宮町支会の取組 プロレスラーらが募金協力を呼びかけ

共同募金会新宮町支会では、共同募金運動をPRするため、11月3日（日）に開催された「まつり新宮」（沖田中央公園・そぴあしんぐう）において、一般社団法人新宮町おもてなし協会とプロレスリング華☆激に協力いただき、赤い羽根共同募金運動応援イベント『しんぐう☆キズナプロレス』を実施しました。

共同募金会職員が試合と試合の間に説明を行い、その後、プロレスラーが来場者に向け、募金協力を呼びかけました。

また、社会福祉協力校の小・中・高校生やボランティア団体、福祉団体の協力を得て、街頭募金を実施し、イベントに参加された多くの方々に共同募金をPRすることができました。

【問い合わせ先】福岡県共同募金会
☎092(584)3388

社会福祉の向上に貢献された皆様を表彰いたしました。

去る10月30日(水)クローバープラザ(春日市)で開催された福岡県社会福祉大会において、福岡県知事、福岡県社会福祉協議会、福岡県共同募金会、それぞれから表彰状・感謝状の授与を行いました。また、赤い羽根キャッチフレーズの最優秀賞の表彰も行いました。受賞された皆様、誠におめでとうございます。

福岡県知事表彰

民生委員・児童委員	37名
社会福祉事業団体関係者	7名
社会福祉事業施設従事者	54名
ボランティア等功労者	13名

福岡県知事感謝

民生委員・児童委員	36名
社会福祉事業団体関係者	10名
社会福祉事業施設従事者	41名
ボランティア等功労者	48名

福岡県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉事業特別功労者	138名
民生委員・児童委員特別功労者	28名
優良社会福祉事業施設	10施設
優良社会福祉協議会	3校区社協

福岡県社会福祉協議会会長感謝

社会福祉事業協助者	個人3名
	25団体

福岡県共同募金会会長表彰

会長表彰	個人19名
	2団体
優秀地区	22支会

福岡県共同募金会会長感謝

会長感謝	個人66名
	15団体

2019年度赤い羽根キャッチフレーズ入選作品・特別賞
最優秀作(1作品)、優秀作(11作品)、特別賞(19校)

2020年度版 社会福祉手帳・民生委員手帳 販売開始

福岡県内の社会福祉施設の名簿に加え、福祉関係の法律(要点)やふくしの保険、各種相談窓口など、福祉に関係する基本情報を多数掲載しており、福岡県内の福祉に関する連絡先等を凝縮した一冊となった手帳です。(写真は前年度のもの)

◆仕　様

携帯に便利なポケットサイズ
(縦14cm×横8.5cm)

◆主な掲載内容

・見開き月間スケジュール、週間スケジュール
・社会福祉関係法律の要点等
・福岡県内の社会福祉施設、関係団体の連絡先
・各種相談窓口の連絡先
・福岡県の人口・高齢化率など

◆申込方法

HP掲載の申込用紙に記入のうえ、FAXまたは郵送でお申し込みください。後日、現品納入の際に請求書・振込用紙を同封いたします。

800円(税込、送料別)

【問い合わせ先】
総務課　☎092(584)3377

催し

福祉のしごと就職フェア

福祉の職場に就職を希望する方や興味のある方に対し、求人施設・事業所と直接面談できる「福祉のしごと就職フェア」を開催します。当日は、面談コーナーの他、福祉の仕事・資格相談コーナー等も設けます。参加費無料、申込不要、入退場自由。170法人が集まる九州最大規模の就職フェアに、ぜひご参加下さい。

日　時　2月8日(土)
　　11時から16時
場　所　クローバープラザ
　　(春日市原町3−1−7)
対　象　社会福祉施設・事業所への就職希望者(資格・経験は不要)・令和2年3月末大学・専門学校等卒業予定者

[問い合わせ先] 人材・情報課
TEL 092(584)3310

福祉人材センター
ホームページ

ふくおかきずなフェスティバル

日　程　2月16日(日)
場　所　クローバープラザ
　　(春日市原町3−1−7)
●開会式典
●記念講演
「子どもの貧困と居場所づくり」
講師:大西　良　氏
筑紫女学園大学 人間科学部
人間科学科　心理・社会福祉専攻
准教授
●ボランティア活動別分科会
高齢者分科会
障がい児者分科会
防災分科会
子ども・子育て分科会
環境分科会
●ボランティアスキルアップ研修
●まごころ製品販売フェア
●食の絶品マルシェ
●親子で楽しめるイベント
●ステージイベント
●スタンプラリー
※事前申込が必要なものがありますので、詳しくはHPをご覧下さい。

[問い合わせ先]共生社会推進課
TEL 092(584)3377

ふくおかきずな
フェスティバル
ホームページ

セミナー・研修

令和元年度みんなが主役の元気な地域づくりセミナー

日　時　3月2日(月)
　　10時30分〜15時30分
場　所　福岡国際会議場 2階
　　多目的ホール
　　(福岡市博多区石城町2-1)
内　容　講演
　　「みんながつながり、安心して暮らせる地域をめざして
　　〜身近な地域福祉活動の拠点づくり〜」
　　講師:こころ研究所 所長
　　鎌田 敏　氏
　　パネルディスカッション
定　員　1,000名

[問い合わせ先]地域課
TEL 092(584)3377

①社会福祉法人監事及び会計責任者研修

日　時　1月28日(火)
　　13時〜16時
場　所　クローバープラザ 1階
　　クローバーホール
　　(春日市原町3−1−7)
対　象　社会福祉法人の監事、会計責任者等
定　員　180名
受講料　5,000円
申　込　本会研修課HP
　　またはFAXで申込

②利用者・家族とのコミュニケーション力向上研修

日　時　2月19日(水)
　　10時〜16時
場　所　クローバープラザ東棟 5階
　　508研修室
　　(春日市原町3−1−7)
対　象　社会福祉施設及び市町村社会福祉協議会の新任職員、中堅職員
定　員　90名
受講料　5,000円
申　込　本会研修課HP
　　またはFAXで申込

③業務目標の設定管理・達成研修

日　時　A日程　2月22日(土)
　　B日程　3月3日(火)
　　両日とも10時〜16時45分
場　所　クローバープラザ東棟 5階
　　508研修室
　　(春日市原町3−1−7)
対　象　社会福祉施設及び市町村社会福祉協議会の管理職や指導的立場にあるリーダー等(概ね勤務年数10年以上)
定　員　各日程72名
受講料　5,000円
申　込　本会研修課HP
　　またはFAXで申込

①〜③の研修について
[問い合わせ先] 研修課
TEL 092(584)3401

研修課
ホームページ